

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第610号 平成25年9月12日

## 復興と和解のオリンピックへ

国際オリンピック委員会（IOC）総会が7日（日本時間8日）、ブエノスアイレスで行われ、2020年夏季五輪・パラリンピックの開催都市に東京を選びました。

選考レースの終盤になって、福島第一原子力発電所の汚染水問題がクローズアップ

され厳しい状況が予想されたので、東京が圧倒的な得票により選ばれた事に驚くと共に、素直に喜んでいきます。

今回の招致レースでは、スペインのマドリードやトルコのイスタンブールにも可能性はありましたが、マドリードは財政上、イスタンブールは治安上それぞれに不安を抱えており、結果、



【東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会ホームページから】

東京の安心感がIOC委員の心を掴んだようです。

東京オリンピックは1964年以来56年ぶりであり、1972年の札幌、1998年の長野と合わせ4回目のオリンピックとなります。

ロゲIOC会長の「トウキョウ」のアナウンスに歓喜の声を上げる招致委員会メンバーの姿を見ながら、今回は、日本は良くやったなどの思いを深くしています。

特に、日本のプレゼンテーションの様子をテレビで見ましたが、大変素晴らしいものでした。抑制が効いていながら、しかも、何としても東京でオリンピックを開催したいという熱い思いに溢れており、IOC委員の心を動かしたに違いないと感じました。

7年後のオリンピック開催地が東京に決まった瞬間、歓喜の声を上げたのは招致委員会のメンバーだけではありません。日本国中の人々が、久々に明るい気持ちになったのではないかと思います。特にこの数年、日本は内憂外患を抱え、自信喪失気味でしたから、東京開催決定を聞いて元気が出て来たと感じた人も多いのではないのでしょうか。

さて、1964年に開催された東京オリンピックは、太平洋戦争に敗れ、焦土と化した日本の、奇跡的な復活を象徴するものでした。

国内では、東京オリンピック開催を契機に競技施設のみならず、交通網の整備等都市インフラの整備に巨額の投資が行われ、今日の東京の原型が作られました。また、カラーテレビの購入台数が飛躍的に増加する等消費も拡大し、日本は、高度経済成長へとひた走ることになります。

更に、国際的には、オリンピック開催期間中にソ連（現ロシア）のフルシチョフ首相が解任されたり、中国が核実験を行う一方、キング牧師のノーベル賞受賞が決まる等、時代の大きな転換点にもなりました。

7年後の東京オリンピックがどのような大会になるのか、今から楽しみです。

プレゼンテーションに先立って高円宮妃久子様が登壇し、IOCの被災地に対する支援に感謝の言葉を述べられましたが、それは本当に素晴らしいものでした。

私は、7年後の東京オリンピックは、単なるスポーツの祭典で終わらせてはならないと思います。むしろ、未曾有の被害を受けた東日本大震災から立ち直った日本の姿を世界に示し、多くの支援をいただいた世界の人々に感謝の意を表すという絶好の機会にすべきだと思います。あの、大災害から立ち直った日本人の知恵と力を示すべきです。

その為には、絶対に成し遂げなければならない事があります。

安倍総理は第一原子力発電所の汚染水漏れ問題について、プレゼンテーションの中で「状況はコントロールされている」「東京にはいかなる悪影響も及ぼすことはない」と明言されました。しかし、日々汚染水漏れのニュースを聞かされている身からすると、安倍総理の「安全」宣言に対しては、正直理解し難いところがあります。今現に、故郷に帰ることが出来ず、苦しんでいる被災者の声が総理の耳には届いていないのでしょうか。

政府は、総力を挙げて、早急に汚染水漏れを解決しなければなりません。それは、オリンピックの為ではなく、福島の子供たちの為に成し遂げなければなりません。そうしてこそ、7年後には自信を持って世界中の人々を迎えることが出来るでしょう。

今シリアは凄惨な内戦状態にあります。地球上の様々なところで、テロや紛争が起こっており、都市は破壊され、多数の犠牲者が出ています。日本も、領土問題を巡り中国や韓国と厳しい緊張関係が続いています。

7年後の世界の情勢がどうなっているのか予測する事は困難ですが、各国の思惑や紛争によって、平和の祭典であるオリンピックが汚されるような事があってはなりません。その意味では、ヨーロッパとアジアの架け橋であり、イスラム圏の開催と中東和平の推進力になることを訴えたイスタンブールの思いは東京も大切にすべきであり、開催地日本がなすべき事は沢山あると思います。

毎日新聞（9月10日付）は、「未来への遺産を作ろう」と題する社説の中で、1964年の東京オリンピックの「今日より明日がよくなる」という時代と結びつい

た記憶は、「当時を知る人たちにとって今も無形のレガシー（遺産）となっている」と述べています。7年後に開かれる東京オリンピックは、その後続く時代に生きる人々に対して、あらゆる破壊からの復興と相互の不振や反目からの和解という大きなレガシーを残せるものにすべきです。そして、日本には、もっといえば日本だからこそ、そうする役割と責任、更には期待が課せられていると私には感じられてなりません。（塾頭：吉田 洋一）